

がたモニ

第6号

2012年4月20日発行

認定NPO法人生態工房

167-0054 杉並区松庵3-38-14-2D

03-3331-5004 (電話/ファックス)

がたモニとは？

がたモニは、江戸前・三枚洲の干潟を守る市民参加の楽しい活動です。干潟の生きもののモニタリング（定期調査）、生きもののすみかを守る野外作業、干潟の生きものを知る観察会などを通して、三枚洲の自然に親しみ、未来へと伝えていきます。

三枚洲を知っていますか？

東京湾の豊かな自然を回復させるために整備された東なぎさ、西なぎさの人工干潟は、東京湾で残り少ない干潟として、大切な生物のすみかになっています。その沖合にひろがる自然の干潟・浅瀬が『三枚洲』です。干潟の沖合への張り出しは、1.5kmにも及び、湾内で最大規模。荒川と江戸川が注ぎ込み、貝類、魚類などの産卵・生息地としてさまざまな生きものを育てています。日本に渡来するスズガモの約3割、20,000羽が越冬するほか、キョウジョシギなど多数のシギ・チドリ類が生息しています。三枚洲は「東京湾の干潟・浅瀬」として環境省「日本の重要湿地500」に選定されています。



がたモニレポート

冬の猛禽観察会 2012年2月11日実施

木々が葉を落とした冬は、鳥の観察にはもってこい。この日は、双眼鏡や望遠鏡を構える前に、講師の鈴木さんから、「猛禽」にはどんな仲間がいるの？どこでどんな風に暮らしているの？と絵で説明していただきました。

フクロウも猛禽の仲間だし、サシバも猛禽。でも、暮らしているところや餌、餌の食べ方がちがう。餌の食べ方も丸呑みする仲間と噛み砕く仲間、夜餌をとるか昼間餌をとるか、など一口に「猛禽」としてもさまざまな種が、それぞれに適した環境で生息している事がわかります。

さて、望遠鏡を携えて園内を散策。カモが群れで飛ぶ姿や、水面で島のように群で休んでいる姿を観察していると、乾いたアシ原の上をチュウヒがひらひらと軽やかに舞っています。

そして、林内にはハイタカとノスリ。どうして、林の中のノスリが見つけれられるの？と、参加者からご質問。本当ですね。ぼーっと見ていると、なかなかわかりません。発見がたくさんのお観察会でした。

ノスリ



ゴカイ類—干潟の生態系を支える—

干潟に行くとき、貝やカニ、シギやチドリなどの鳥類に目も心もひかれるものです。しかし、ひっそりと暮らしているゴカイ類にも目を向けてみましょう。

ヒモのような見た目も似ていてもミミズと違ってゴカイ類の生活はさまざまです。たとえば、どう猛に動物を捕獲して食べるのがチロリの仲間、砂ごと付着している栄養分を食べるタマシキゴカイ、海水中のプランクトンを食べるツバサゴカイなど、生活のスタイルが大きく異なっていることはあまり知られていません。

干潟の生態系においてゴカイ類は、栄養を集める役割をしています。そのままでは汚れてしまう、砂や海水中の有機物を、ゴカイ類が取り込むことで浄化することができます。さらに、成長したゴカイ類がカニや魚、鳥に捕食されることで、それらの生きものが生活することができます。干潟で生きもの観察をしていると、ゴカイ類をさまざまな生きものが食べている姿をよく見かけます。

ヒトにとってゴカイ類は食用でもなく、派手な動きもなく砂の中にいるので、とても地味な存在ですが、干潟の生態系を支えるうえでは欠かせない生物群なのです。ぜひ、春の干潟でゴカイ類の観察もしてみてください。

庭野裕 (東京都立大崎高等学校教諭)

ひがたの生きもの図鑑



イベントカレンダー 2012年4～9月

■申し込み

「干潟の生物調査」以外は申し込みは不要です。当日それぞれの集合場所にお越し下さい。行事傷害保険に加入のため、集合時に名簿へお名前や住所をご記入いただきます。

参加費は当日お持ちください。

■申し込み・問い合わせ：認定 NPO法人生態工房 がたモニ係

〒167-0054 杉並区松庵3-38-14-2D

e-mail : info@eco-works.gr.jp 電話・ファクス : 03-3331-5004

HP: <http://www.eco-works.gr.jp/>



◎調べよう干潟の生きもの

干潟の生物調査

定員:40人／参加費:無料 要申し込み
雨天中止

干潟の生物多様性を知るために、貝やカニなどの底生生物を定期的に調査します。専門の指導員が参加するので、始めての人でも調査できます。

●6/17(日)9:30～14:30

集合:葛西海浜公園「西なぎさ」案内所前(葛西渚橋を渡ったところ)

持ち物:帽子、長靴、泥が付いてもいい服、軍手やゴム手袋、昼食



◎干潟の自然観察会

干潟の生きもの観察会

定員:25人／参加費:300円 雨天中止

潮の引いた干潟でカニや貝などいろいろな生きものを観察します。

●5/20(日)10:00～12:00

集合:葛西海浜公園「西なぎさ」案内所前(葛西渚橋を渡ったところ)

持ち物:帽子、長靴、泥が付いてもいい服。

案内:庭野裕(都立大崎高校教諭)



干潟のトビハゼウオッチング

定員:25人／参加費:300円 雨天中止

泥の上をカエルみたいに跳ねる不思議な魚トビハゼ。跳ねたかと思うとずるずる泥に潜るよ。トビハゼ観察会にぜひどうぞ!

●7/1(日)10:00～12:00

集合:葛西臨海公園鳥類園ウォッチングセンター

持ち物:帽子、長靴、泥が付いてもいい服。

案内:庭野裕(都立大崎高校教諭)



カニカニ観察会

定員:25人
参加費:300円
雨天中止

葛西の水辺はカニでいっぱい!そして、干潟だけではなく、林の中や園路にも、実はカニはいるんです。いろいろなカニを見に行きましょう。

●9/2(日)10:00～12:00

集合:葛西臨海公園鳥類園ウォッチングセンター

持ち物:帽子、長靴、泥が付いてもいい服。

案内:庭野裕(都立大崎高校教諭)

◎干潟の調査と保全-シギが来る干潟づくりと生きもの調査

干潟の復元活動の成果をしらべましょう。

ヨシの刈り取りをして、底生生物の生息状況の変化を調査します。

●日時:4/21(土)、5/19(土)、7/21(土)、9/15(土) 9:30～12:00

定員:各回25人／参加費:無料 雨天中止

集合:葛西臨海公園鳥類園ウォッチングセンター 持ち物:帽子、長靴、泥が付いてもいい服、あれば軍手、鎌。10名以上で参加される場合は道具の準備の都合上、事前にご連絡下さい。

鳥類園の下の池の中には、長い間十分な手入れがされなかったため、古いヨシが密生し、水の流れや風通しが悪く、生きものが棲みにくい場所があります。そこで、古いヨシ原を切り開き、水の流れをつくったり、ヨシを刈り払って更新し、生きものが棲める干潟づくりを進めています。

この活動に、少しずつ成果が現れています。腐食が溜まって強いメタン臭がした干潟も、空気にさらされたり、水の流れが改善されて、土の色が変わってきました。それにつれて、これまであまり見られなかった、ゴカイの仲間たちが観察されるようになっていきます。

今年は、干潟の復元作業にあわせて、生きものの生息状況を調査し、成果を活動に役立てます。

きれいな干潟に棲むヤマトオサガニやトビハゼが確認されるようになると、ヨシ原が棲みやすくなっている証拠。生きもの環境を守るため、ヨシ刈り作業と調査に参加しませんか?

